

第6回 校長会議あいさつ

R.6.8.28 稲垣

まだ暑い日が続いていますが、朝夕の爽やかさとともに、いくぶん空が高くなったように感じられます。直撃かと思われた台風が西側に逸れたものの、今度は日本列島を縦断しそうな予想進路です。各学校での備えをお願いします。夏季休業も残すところ4日となりましたが、夏休み中には、部活動の大会、中学生議会など、多くの児童生徒の活躍がありました。とりわけ少年の主張では、西尾市の代表として県大会に臨んだ、鶴城中学校の村木新君が最優秀賞を獲得し、愛知県代表となりました。このような勢いが新学期の活力につながっていくよう、各学校でのご指導をお願いします。

本日は二点についてお話しします。

一点目は、中学校の部活動についてです。先月下旬、部活動の地域移行のことで、スポーツ協会と打ち合わせるために、総合体育館に出向きました。おりしもアリーナでは、剣道の西三河大会が行われており、そこで素晴らしい試合を観戦できました。男子準決勝、平坂中対西尾中。剣道素人の私には、目まぐるしく攻守の交錯する試合の勝ち負けはよく分かりません。しかし、両校の選手たちの闘いの姿に感動しました。防具のため生徒たちの表情は窺えないのですが、その一挙手一投足からは、一步も退かぬという覚悟が気迫となって、全身から立ち上っているように見えました。その姿は実に清々しく、私は目頭を熱くしながら退出しました。ここまで生徒たちを燃えさせ、心を強くする可能性がスポーツにはあります。今のところ、部活動の今後には見通しにくい側面もありますが、この教育価値を失わないような地域移行の方向性をできる限り模索していきたいと改めて感じました。

教師力という視点から部活指導を考えると、ベテラン教師の中には、部活指導を通して、自分の生徒指導力が高まったと実感している教員は、少なからずいると思います。生徒たちと高い目標を共有し、生徒の向上心に火をつけることができた時、生徒たちを大きく成長させることができます。また、一人の人間として生徒と誠実に対峙できた時、本物の信頼を得ることができる。この経験は、その後の生徒指導力の堅固な礎となって、教師に自信をもたらしていくものです。近年、働き方改革の進行の中で、伸び盛りの若手教師の研修機会も、減少傾向にあります。若手教師が部活指導に関わることの価値は、競技技術の指導以上に、部活運営の面で大きいと思います。今後、休日の部活動が学校を

離れ、地域移行したとしても、できれば地域の指導者という立場で生徒たちとともに汗や涙を流し、成長する教師になってくれることを願っています。

二点目は、夏休み明けの指導についてです。2学期を迎える子どもたちの気持ちは、さまざまです。友達との再会を楽しみに、土産話をどっさり抱えてくる子どももいる一方で、宿題ができていなかったり、集団生活再開へのストレスから登校を渋る子どももいるかもしれません。また、夏休み中での出来事で心が弱くなっている子どももいる可能性があります。心配な子どもには保護者と連携しながら、早めに声掛けなどして、9月2日からの登校を支えてあげようお願いします。また、登校した子どもたちの様子をつぶさに観察するように努めてください。そして、各学校や各学級において、子どもたちが、2学期の始まりにわくわくできるように、楽しみが感じられるような工夫をお願いします。